

読書推進運動

公益社団法人
読書推進運動協議会
〒101-0051
東京都千代田区神田神保町1-32
出版クラブビル6階
TEL 03(5244)5270
FAX 03(5244)5271
発行人 佐々木 泰
編集人 片岡 伸子
定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.684

- ★2025「若い人に贈る読書のすすめ」書目一覧(2頁)
- ★「東京・学校図書館スタンプラリー」(6頁)



「若い人に贈る読書のすすめ」によせて 「主体的に」自分の頭で考えよう

北極冒険家
冒険研究所書店店主

おぎた やすなが
荻田 泰永

「若い人に贈る読書のすすめ」によせて

て肉体的表現を行う生き物である」と。

冒険や探検は危険を伴います。命をかけてまで科学的な謎に挑戦するのは、地上で人間ただ一種です。

そして、本を読む動物も人間だけです。生物として、命を生き長らえさせて子孫を繋ぐだけであれば、本を読むことなど無駄な行為でしょう。しかし、人間は本を読みます。知的な情熱を大切にしてきたからこそ、文明社会があり、私たちの生活があります。先人たちの営みを自分ごととして主体的に感じ取り、いまを生きる私たちの血肉とすることが、真の意味で本を読むということなのです。

私が冒険研究所書店を開設したのは、主体的に自分の頭で考えることの楽しさや喜びを、多くの人に感じてもらいたいと思ったからです。

みなさんも一緒に、本の中に、または本を携えて未知の世界に旅立ちましょう。本のページをめくるたびに、そこには未知の世界が待っています。

「若い人に贈る読書のすすめ」によせて

「主体的に」自分の頭で考えよう

北極冒険家
冒険研究所書店店主

おぎた やすなが
荻田 泰永

私は20年以上、北極や南極

での徒歩冒険を続けています。「冒険家」が肩書きですが、3年前から私の肩書きに「書店主」が加わりました。

神奈川県大和市、小田急線の桜ヶ丘駅前に2021年5月に私が開設したのが「冒険研究所書店」です。

冒険家がなぜ書店を始めたのか。

これまで何度尋ねられたかわからないその質問の答えにはいくつかの理由があります。そのひとつに「冒険をすることと読書の共通性」があります。キーワードは「主体性」です。

そもそも冒険とは、自らの内側で湧きあがる情熱や衝動、好奇心などによって社会の既存の枠を乗り越えていく

行動です。誰かに命じられた

り、強制されて行動を起こすのではない、ルールもマニュアルもない、自らの意思と思考、主体性が大切になります。

読書にも、主体性が大切です。逆説的に、主体性のない読書とはなんでしょうか。本の中に「答え」を探しながら

行う読書が、主体性の乏しい読書だと私は感じます。答え

とは、本の中ではなく、読者自身の頭の中しかありません。自らの頭の中の答えにたどり着くための、ヒントや思考の栄養として本はあります。主体的に考えることでしか、自分なりの答えは見つかりません。

自分の頭で考えること。それこそが、冒険においても、読書においても大切なことです。

1922年に英国人探検

家、チェリー・ガードが出版した南極での探検記『世界最悪の旅』には、こんな一節があります。

「探検とは、知的情熱の肉体的表現である」

なにかを知りたい、謎を解明したい、好奇心や科学的な欲求、知的な情熱を肉体を通して探求したときに探検という行為になります。

肉体的表現だけならば、人間以外の動物も行います。しかし、その前に「知的情熱」を宿すのは人間だけです。

そう考えていくと、この一文は「探検とは」で始められています。私には「人間とは」をも語っているように感じられます。

「人間とは、知的情熱によつ

2025 『若い人に贈る読書のすすめ』実施

公益社団法人 読書推進運動協議会・事業委員会は、2025『若い人に贈る読書のすすめ』推薦図書24点を選定しました。

今年も例年どおり、道府県読書推進運動協議会に「若い人にぜひ読んでもらいたい本」の推薦を依頼、40の読進協から計83点の書目の推薦をいただきました。

もつとも推薦が多かったのは、田内学の『きみのお金は誰のため』で、8つの読進協から推薦がありました。ついで辻村深月の『あなたのお金を誰のため』が6つの読進協から推薦がありました。三七香帆の『なぜ働いていると本が読めなくなるのか』、伊与原新の『宙わたる教室』、宮島未奈の『成瀬は信じた道をいく』への推薦も多くありました。



①各出版社1点 ②複数推薦書目の検討 ③対象読者向きか ④そのほか各委員が特別に推薦したい書目などを勘案して検討。メールでの投票と意見交換を行い、最終的に委員会全体で24点を確認、決定いたしました。

本年度も、この推薦図書リーフレットを18万9000部製作、道府県の読進協・都道府県立図書館を通じて各公共図書館に、日本出版取次協会の協力で取次会社を通じて全国の書店に配布を行い、有効に活用していただく予定です。

リーフレットの出来は12月上旬を予定。2024年内の発送は12月24日(火)受付分までです。成人式でご利用予定の方はご注意ください。卒業式、読書グループ、学校での読書指導、地域の文化活動などのご利用も歓迎です(郵数にかぎりがあります)。ご希望の方は公益社団法人 読書推進運動協議会事務局までお問い合わせください。

03-5244-5270
e-mail info@dokusyo.or.jp

『若い人に贈る読書のすすめ』リーフレット掲載書名一覧

著者名	書名	定価	出版社
伊与原 新	宙わたる教室	一七六〇	文藝春秋
宮島 未奈	成瀬は信じた道をいく	一七六〇	新潮社
田内 学	きみのお金は誰のため	一六五〇	東洋経済新報社
額賀 澤	夜と跳ぶ	一八七〇	PHP研究所
原田 ひ香	喫茶おじさん	一六五〇	小学館
安田 夏菜	アナタノキモチ	一七六〇	文研出版
辻村 深月	あなたの言葉を 休むヒント。	一五四〇	毎日新聞出版
群像編集部/編	休むヒント。	一四三〇	講談社
共同通信社/編	迷いのない人生なんて	一四四〇	岩波書店
ないろ(若原が聴きたい) NIR(若原が聴きたい)	君の声が聴きたい	一六五〇	双葉社
春名 風花	ネットでいじめられたら、どうすればいいの？	一五六二	河出書房新社
坂上 香	根っからの悪人っているの？	一七六〇	創元社
三宅 香帆	なぜ働いていると本が読めなくなるのか	一一〇〇	集英社
今井むつみ	『何回説明しても伝わらない』はなぜ起こるのか？	一八七〇	日経BP
川添 愛	世にもあいまいなことばの秘密	九九〇	筑摩書房
大島 梢絵	読書は鼻歌くらいでちょうどいい	一五四〇	辰巳出版
内藤 諄人	考え方ひとつで明日はもっとうまくいく	一三七五	明日香出版社
道草晴子/漫画 坂口恭平/原作	生きのびるための事務	一七六〇	マガジンハウス
山崎 元	経済評論家の父から息子への手紙	一七六〇	Gakken
大平 一枝	注文に時間がかかるカフェ	一九八〇	ポプラ社
柴崎 友香	あらゆることは今起こる	二二〇〇	医学書院
佐藤 舞	あつという間に人は死ぬから	一七六〇	KADOKAWA
前野 太郎	バッタを倒すぜアフリカで	一六五〇	光文社
柳沢 正史	今やら聞けない睡眠の超基本	一五四〇	朝日新聞出版





2024年度・第57回 全国優良読書グループ表彰 道府県読進協推薦

道府県読進協推薦

公益社団法人 読書推進運動協

議会で、第78回「読書週間」事業として、11月3日(祝)を中心に、各道府県の読書推進運動協議会を通じて、「第57回 全国優良読書グループ(下表)」の表彰を行いました(一部選考中)。

読書グループの結成促進と育成強化は、読書推進運動の根幹をなすものとして、公益社団法人 読書推進運動協議会は結成以来、活動の第一目標とし、道府県各読書推進運動協議会と連携して、その育成・発展に努力を重ねています。

この事業は、各読書推進運動協議会の推薦により、一地域一グループを表彰するもので、原則として5年以上の活動を続けているグループを推薦・表彰の対象としています。

現在、読書グループの活動は、読書会、実演活動、家庭・地域文庫、障がいを持つ方への読書支援、図書館サポートなど、多岐にわたつ

ています。

全国の読書グループに敬意を表し、数ある読書グループを対象にご推薦の労をとられた、各道府県

読書推進運動協議会のみなさまに、深く感謝いたします。
推薦された優良読書グループには、その業績を讃え、公益社団

優良読書グループ名

優良読書グループ名	所在地	代表者(世話人名)
よみかかせの会☆星の子	北海道白糠郡白糠町	鍛冶 恵子
サークルのいちご	青森県八戸市	下坪利都子
おはなしグループ マザーリーフ	岩手県一関市	千葉 典子
仙台手をつなぐ文庫の会	宮城県仙台市	田澤 敦子
鹿角民話の会「どつとはらえ」	秋田県鹿角市	北村 正人
読み聞かせボランティア あゆみらい	福島県岩瀬郡鏡石町	横田 京子
読み聞かせボランティア ダンボの会	栃木県芳賀郡市貝町	北井 晴美
やまばと読書会	埼玉県比企郡鳩山町	柿木 頼子
えんどうまめ	千葉県八街市	小河志のぶ
新潟かみしばいクラブ	新潟県新潟市	石倉 恵子
サンワクト	富山県中新川郡上市町	布沢 桂子
文庫おひさまはらつぱ	石川県金沢市	飯森 博子
敦友クラブ	福井県敦賀市	室 敬士
むかわ図書館桜さくららの会	山梨県北杜市	小池まき子
高甫読書会	長野県須坂市	渡辺きみ江
七色くれよん	岐阜県本巢市	横山 朱實
りぼんクラブ	静岡県三島市	杉浦 美和
おはなしボランティア まめつちよ	滋賀県長浜市	森 治美

法人 読書推進運動協議会より賞状および副賞(図書カード2万円分)を、各道府県読書推進運動協議会を通じて贈呈いたしました。各グループの活動状況は、1月号以降、本紙上で逐次紹介していきます。

となります。
なお、副賞の図書カード2万円分のうち1万円分は、例年同様、日本図書普及株式会社の協賛により寄贈されたものです。同社のご協力に厚くお礼申しあげます。



優良読書グループ名

優良読書グループ名	所在地	代表者(世話人名)
京都語り部の会	京都府京都市	大西まさ子
岩出図書館ボランティア	和歌山県岩出市	中村 文子
布絵本グループ	鳥取県米子市	伊澤 和恵
米子おはなしかご	鳥根県仁多郡出雲町	景山 雅美
わくわく沢つ子読書ボランティア	岡山県岡山市	竹中 美子
おはなしボランティア 積み木の会(選考中)	広島県	
高原小学校親子読書会	徳島県名西郡石井町	川真田 心
絵本の小部屋	高知県高岡郡幡豆町	長田 加苗
地域文庫	福岡県那珂川市	高柳 洋子
読み聞かせボランティア やよい会	佐賀県杵島郡白石町	中溝 茂樹
ゆりの会	長崎県長崎市	濱崎 恵子
ひよつこの会	熊本県天草市	仁田 直美
図書館ボランティア	大分県宇佐市	工藤 貴子
おはなしあのね	宮崎県東臼杵郡門川町	松井里恵子
読み聞かせボランティア くれよん	鹿児島県鹿児島市	久米村沙夜香
伊敷台小学校	鹿兒島県鹿兒島市	大城むつみ
朝読ボランティア「いちよう」	沖縄県糸満市	
いとまん読み聞かせの会 日々草		(以上34グループ)

●全国優良読書グループ表彰のグループへは、今後5年間、本紙「読書推進運動」をお送りいたします。

■「絵本ワールド」東西2エリアで開催

兵庫・明石、東京・紀尾井町、 地域の特性を活かして開催！

「絵本ワールド in ひょうご 2024」が10月5日(土)、6日(日)に兵庫県明石市のあかし市民広



あかし市民広場は、JR明石駅と、人気の「魚の棚商店街」の間に立地

場で開催された。会場はJR明石駅直結の「パピオスあかし」にある多目的スペースで、このイベントを知らずに通りかかって、会場に入る人もいるような抜群のアクセスだ。子育て支援に力を入れる明石市だが、「本のまち明石」をかかげる自治体でもある。6日には丸谷聡子市長もかけつけオープニングを宣言した。

兵庫県書店商業組合の主催であり、多くの出版社がブースを展開し、絵本の販売を実施。家族連れが本を手にとつて熱心に選ぶ姿が見られた。また、明石市在住の絵本作家、たなかしんさんによるライブペインティング、神戸市在住の絵本作家、マメイケダさんといつしよにご当地グルメの明石焼きを描くコーナー、紙芝居実演、原画展など多彩なコンテンツが用意された。

さらには今年の本屋大賞にノミネートされた『放課後ミステリクラブ』の著者、知念実希人さんもスペシャルゲストとして登場。2日続けて盛況となり、多くの子どもたちが、本と一緒に過ごす週末を楽しんだ。

いっぽう、10月12日(土)、13日(日)には、東京都千代田区の城西国際大学紀尾井町キャンパス1号棟を会場として「絵本ワールド in 紀尾井町2024」が開催された。今回は紀尾井町地域連携イベントである「紀尾井FES」と連動して開催である。

紀尾井町キャンパスでは、同大



城西国際大学の学生たちによる読み聞かせやワークショップも実施

学の多くの学生がイベントの企画、運営にたずさわり、新刊を中心とした絵本児童書の展示と「大学特別価格」での販売会などを実施した。さらに、第29回日本絵本賞大賞受賞者「ザ・キャビンカンパニー」さんのトークイベント(全国学校図書館協議会と共同主催)、絵本作家「塚本やすしさんの楽しいおはなし会」(主催・NPO法人絵本文化推進協会)など、他の団体と連携してのコンテンツにもチャレンジ。「紀尾井FES」に参加地域企業との連携により、周辺の史跡をポイントとするクイズラリーを展開するなど、東京都心に立地する特色を生かした「都会の絵本ワールド」の趣となった。

■第16回矢祭もつたいない図書館手づくり絵本コンクール

全国から集まった作品から 14点が入賞！

福島県矢祭町の矢祭もつたいない図書館が主催する「第16回矢祭もつたいない図書館手づくり絵本コンクール」が10月23日(水)に最終選考会を開催し、今年の入賞作品14点が決定、発表された。

このコンクールでは、「自然・友情・心の大切さ」と、夢と希望がいつばいつまった手づくり絵本」をテーマに全国から作品を募集している。今年応募作品数は、一般の部(高校生以上)が56点、家族の部(中学生以下の幼児・児童・生徒が家族と一緒に制作したもの)が132点。

最終選考会では、柳田邦男さん(フンフィクション作家)、あべ弘士さん(絵本作家)、佐川正一郎さん(矢祭町長)の3人が審査員を務め、各部門の最優秀賞ほか受賞作品が決定した。

一般の部の最優秀賞は、『こまつたネコちゃん』福池桂子さん(徳島県鳴門市)、家族の部最優秀賞は、『ルナのおるすばん!!』吉村重昭さん・奏那さん(福岡県宗像市)が受賞した。この2作品は、印刷

製本され、副賞として作者へ贈呈される。また、最優秀受賞者は1年間、「手づくり絵本大使」に任命される。そのほか、すべての入賞作品は電子書籍として制作され、3年間公開される。すべての受賞作情報、および選考会の様子などは、矢祭もつたいない図書館のホームページで見ることが出来る。

●矢祭もつたいない図書館
<https://mottainai-toshokan.com/>



今年の最優秀賞『こまつたネコちゃん』『ルナのおるすばん』

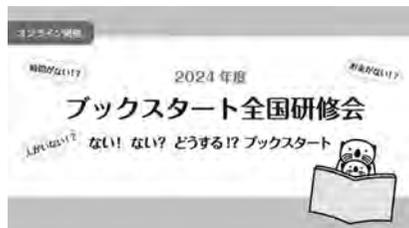
■ブックスタート全国研修会

ブックスタート実施に向けて 課題や実践を紹介

NPOブックスタートは、2025年1月29日(水)に、「ブックスタート全国研修会」がない? どうする!? ブックスタート」を、オンラインで開催する。

この研修会は、ブックスタートを実施、または実施検討中の自治体職員やボランティアなどを対象として開催される。今回は、ブックスタートの開始や継続において課題となる「時間」「人材」「予算」をテーマに、各地での実践を紹介しながら、パネルディスカッションを行う。

パネリストは、小林生吉さん(北



「時間」「人材」「予算」の課題をどう乗り越えるか、実践を紹介

海道中頓別町 町長、角田まゆみさん(千葉県鎌ヶ谷市役所健康増進課母子保健係係長)、一ノ瀬留美さん(福岡県筑後市立図書館館長)の3名で、コーディネーターは代田知子さん(NPOブックスタート理事、埼玉県三芳町立図書館 元館長)が務める。研修会終了後、2025年2月12日(水)4月30日(水)の期間でのアーカイブ配信が予定されている。

オンラインでの当日参加、アーカイブ配信ともに、事前の申し込みが必要(参加費無料)。申し込みは、NPOブックスタートサイトでできる。締め切りは2025年1月22日(水)。プログラム詳細、申し込み方法はNPOブックスタートまで。

●NPOブックスタートサイト
<https://www.bookstart.or.jp/>



申し込みサイト QRコード

■「広瀬恒子さんを偲ぶ会」

子どもと読書を考え、取り組んで きた生涯を偲ぶ

10月20日(日)、東京都千代田区出版クラブホールにて、「広瀬恒子さんを偲ぶ会(主催)親子読書地域文庫全国連絡会(親地連)、協力)一般社団法人 日本子ども本研究会」が開催された。

広瀬さんは親地連設立に参加、事務局長、代表を長年勤め、また、日本子ども本研究会や学校図書館を考える全国連絡会、子ども本・九条の会など、幅広く活躍された。『子どもと読書 いまこれから』(新日本出版社)、『読書ボランティア活動ガイド』(一

声社)、『子どもの本この一年』(廣瀬恒子講演録(おやちれんブックレット))など著作も多い。

会には、親地連・日本子ども本研究会会員、作家団体の代表、編集者のほか、韓国より私立図書館・ヌティナム図書館主宰者の朴英淑さんも参加し、広瀬さんの活動と交流の広さがうかがえた。

広瀬さんのご子息の八木健治さんは「うちの母は訃報が新聞に載る人だったのかと驚いた。ライフワークの子どもの読書に最後まで

取り組むことができた。それは、ここにいる多くの人の支えのおかげです」と述べた。

参加者を代表しての「贈ることば」も、各方面の関係者が登壇。奈良県の天理市立図書館館長の高橋樹一郎さんは「子ども文庫の100年」(みすず書房)執筆に際して、「広瀬さんの膨大な著作・文章から多くを学んだ。文章を通して、広瀬さんと対話をしていた」と述べた。ヌティナム図書館の朴さんは、「広瀬さんは、子どもと本が出会う場所をひとつひとつ訪ねて考える哲学者、読書運動のキーワードは「自由」・尊厳と自由を守るネットワークを作ることが、広瀬さんを偲ぶことになる」と語った。研究者の正置友子さんは「人の関係性が希薄となり、子どもだけでなく大人も本を読まない現状に絶望を感じるが、広瀬さんのことばに支えられてきた。その志を受け継ぐには覚悟が必要と、子どもたちへ未来の希望を渡す決意を語った。そのほか、藤田のぼるさん、丘修三さんも広瀬さんの

思い出を紹介し、その知識と理論に裏打ちされた活動を偲んだ。その後、2008年の『子ども本・九条の会』設立の集い」での広瀬さんのあいつつ動画が上映され、「子ども時代の戦争体験が私の原点。もう二度とだまされたくない」と、自分で真実を探したため、10代のときに多くの本から学び、楽しみ、目を開かされた。知らないままにいて、無知なままでは加害者になる。だから、子どもの読書環境を作ることが大切なのです」と、語る声に参加者一同、聞き入った。

偲ぶ会終了後には、広瀬さんの著作や写真、遠方のため参加できなかった方からの花やメッセージなどが飾られた会場で、茶話会も開催された。



祭壇から広瀬さんの笑顔が会場を見守った

■高等学校図書館の現場から

学校図書館を社会にひらく 学校図書館の充実を目指して

東京・学校図書館スタンプリイ実行委員長 杉山 和芳
東京都立川国際中等教育学校・附属小学校 課長代理 司書

●「東京学校図書館スタンプリイ」とは

「東京・学校図書館スタンプリイ（以下、スタンプリイ）」とは、学校の夏休み期間中に学校図書館を広く一般に公開し、学校図書館の活動とそこを支える学校司書・司書教諭の役割を知ってもらうことを目的にして開催しているイベントです。

2012年に都立・私立の13校によって始まり、2024年に13年目を迎えました。新型コロナウイルスによりイベントが開催できなかった年もありましたが、今年の夏には第11回のスタンプリイを実施しています。

●参加校と参加者

第11回のスタンプリイには国立・都立・私立の33校が参加しました。開催期間中に参加校がそれぞれ決めた日程で学校図書館を一般に公開しています。

参加対象者は小中学生とその保護者、高校生、教育関係者、図書

館関係者、地域の方、学校図書館に興味を持つ方などです。学校図書館関係者だけでなく、学校図書館や本に関心がある方が気軽に参加できるイベントなのが大きな特徴になっています。

第11回の公開にはのべ1421名の参加者がありました。内訳を見ると、学校司書や司書教諭といった学校図書館関係者や児童生徒、大学生が多く参加してくれています。

●スタンプリイの意義

学校図書館は学校によって施設・設備だけでなく運営もさまざまです。そのため、学校図書館にはそれぞれの特色があり、複数校を回ることでその違いを知ることができます。

通常、学校図書館を外部の人が目できる機会は多くありません。一般の人にとって、学校図書館に興味があっても、実際に見学するのは難しい現状があります。そこで、スタンプリイで学校

図書館を公開し、学校図書館を自由に見てもらうことで、学校図書館への理解を深めてもらい、学校図書館活動の裾野を広げることが目指しています。多くの参加者から「普段見ることができない学校図書館を見学できてうれしい」といった声ももらっています。現職の学校司書の参加も多くあり、貴重な研修の機会になっています。

●スタンプリイの楽しみ

スタンプリイと銘打っていることからわかるように、参加者



地域の人、他校の司書などさまざまな参加者が学校図書館を訪れる

は学校図書館を見学する度に各校オリジナルのスタンプを台紙に押しつけてもらえます。集めたスタンプの数に応じてプレゼントが提供されるので、多くの学校を見学してくれています。中には10校以上を見学する熱心な参加者もいます。

スタンプリイでは単に学校図書館を公開するだけでなく、公開中に参加校で特色あるイベントが行われています。イベントには図書館脱出ゲーム、ボードゲーム体験、ブックトーク、しおり作り、科学あそびなどがあり、小さな子どもも楽しめるイベントが多く、参加者にたいへん好評です。

●読書を広げる

参加者プレゼントとして、参加校司書がおすすめ本を紹介するブックガイドを制作しホームページで公開しています。これまでに13冊が発行され、選書に役立つと人気になっています。毎年この小冊子をもらうのを楽しみにしている参加者もいます。

さらに、スタンプリイでは作家を招いた小中高生対象の講演会も開催しています。これまでに阿部智里さん、伊吹有喜さん、逢坂冬馬さん、青山美智子さんといった作家に登壇してもらいました。



作家を招いての講演会を楽しみにしている中高生も多い

●続けていくことの大切さ

作家と直接会って話を聞くことを通して、未来の作家や読者を育てていきたいと考えています。

スタンプリイは2023年に「Library of the Year 2023」ライブラリアンシップ賞を受賞しました。受賞理由は「小さな一歩から大きな飛躍を遂げた学校図書館の10年間の軌跡」です。10年以上におよぶ継続した取組を評価してもらいました。

学校図書館を取り巻く現状は厳しく、イベントを継続していくことは容易ではありません。ですが、スタンプリイを継続することが学校図書館の充実につながるという強い思いを持ち、今後も歩みを進めていこうと考えています。



本の街の本まつり 第32回 神保町 ブックフェスティバル

ザ・キャピカンパニー『だ
いおういかのいかたろう』（鈴木
出版）の大型絵本も！このあと、
私の目の前でお買い上げされてい
きました。

作家・今村翔吾さんのシェア型
書店「ほんまる」もフェスティバ
ルに参加です。

当事務局が入っている出版クラ
ブビルでも、ワークショップや講
談社おはなし隊のおはなし会が開
催されました。



当事務局がある神田神保町恒
例の「神保町ブックフェスティバ
ル」が10月26日(土)・27日(日)に開催
されました。メインのすずらん通
りいっぱいに出版社のワゴンが並
ぶ「本の得々市」は、歩くのもた
いへんなほどに愛書家が詰めか
け、各出版社のテントには人垣が。
東京以外の出版社やブックカバ
ーなど読書グッズのお店も多くあり



また、地元学校による演奏やダ
ンス、神保町よしもと漫才劇場メ
ンバーのお笑いライブなどのお楽
しみも。地元の大学生が各校の法
被を着て会場のお手伝いをする姿
もあり、街をあげてのお祭りム
ードがいっぱい！

また。27日には専修大学を会場
にNPO法人本の学校(鳥取県)
による「本の学校・出版シンポジ
ウム2024」書店、地域、出
版が生き残るためにくも開かれ
ました。
神保町三井ビルディング公開空
地の「こどもの本ひろば」には、
児童書出版社が多数出店。大型絵
本やグッズなども販売され、親子
連れでにぎわいました。



会場には神保町グルメを楽しめ
るコーナーもあり、エネルギーを
補給してからまた本を探す人も多
く見られました。



■伊藤忠記念財団 Webセミナー 動画公開

読書バリアフリー実現に向けた
取組や課題を紹介

公益財団法人 伊藤忠記念財団はWebサイトで、同財団が今年開催した「読書バリアフリーフォーラム北海道」と「読書バリアフリー研究会 特別研修「読書のバリアフリーをすすめるために」」の動画を公開している。

●「読書のバリアフリーをすすめるために」プログラム

「知的障害のある子どもたちへの読書サポート〜生涯にわたる読書支援を視野に入れて〜」「公共図

●「読書バリアフリーフォーラム北海道」プログラム

「北海道の読書環境をどう拓いて」

■第56回 出版功労者顕彰会

新顕彰者名の功績を
ご家族とともに偲ぶ

11月6日(水)、神奈川県箱根町の出版平和堂において、第56回「出版功労者顕彰会」(主催「日本出版

な業績を残された方々で、通算で1238名を数える。

野間省伸日本出版クラブ会長のあいさつで開会した今回の顕彰会第1部は、秋深い箱根の自然なかで黙祷、新顕彰者名呈告、献花と続き、新顕彰ご家族、関係者、役員の写真撮影まで、終始落ち着いた雰囲気なかで進行した。

芦ノ湖畔の箱根ホテルでの第2部では参加者が、テーブルを囲み、

書館の障害者サービスと図書館の現状と未来「著作権法第37条について」学校図書館等における読書バリアフリー「国立国会図書館/国際子ども図書館の読書バリアフリーの取組」みなサーチを中心に」

動画の公開は、2024年12月25日までと2026年3月30日まで

のものがある。視聴方法、各プログラムの講師やパネリストなど、詳細は伊藤忠記念財団まで。

●伊藤忠記念財団 Web サイト

<https://www.iti-zaidan.or.jp/>



新顕彰者のご家族と役員の写真

なごやかな昼食会となった。出版界を取り巻く環境が厳しさを増すなか先達の歩んできた道程に思いをはせる一日を過ごした。

事務局報告(10月)

- ☆1日「2025 若い人に贈る読書のすすめ」各読書推進協議会からの推薦しめきり
- ☆4日「機関紙「読書推進運動」683号別冊入稿
- ☆5日「明日市「絵本ワールドinひょうご」たちあひ
- ☆7日「機関紙「読書推進運動」683号入稿
- ☆8日「機関紙「読書推進運動」683号別冊「別冊 責」
- ☆10日「伊藤忠記念財団子ども文庫助成事業」書面審査提出
- ☆10日「野間読書推進賞 贈呈式」招待状発送
- ☆15日「機関紙「読書推進運動」683号別冊「別冊 出来
- ☆15日「2025 若い人に贈る読書のすすめ」事業委員投票しめきり
- ☆15日「野間読書推進賞要項」入稿
- ☆20日「広瀬厚子さんを偲ぶ会」出席
- ☆21日「2025 若い人に贈る読書のすすめ」掲載目次決定
- ☆22日「2024 子どもの読書週間」について事業報告を文部科学省および後援各団体に事業報告送付
- ☆25日「第78回「読書週間」についてのクラウドファンディング開始
- ☆27日「11月9日」第78回「読書週間」
- ☆29日「2024年度 第3回 常務理事会開催
- ・30日「講談社メディアカンファレンス」出席(東京直通)
- ☆31日「野間読書推進賞 贈呈式」スタート打ちあわせ



読書推進運動協議会 X (旧 Twitter)

●編集部&事務局の
ひとこと

●11月7日、今年の野間読書推進賞贈呈式を開催いたしました。例年同様、事務局の不手際などいろいろとありましたが、これまた例年同様、受賞者みなさんのご人徳、参加者のみなさんのお人柄に支えられ、笑顔のうちに贈呈式・祝賀会を行うことができました。

●個人の部受賞の勝治奈さん(鹿児島県)、奄美大島からのご参加。奄美のことを知ってほしい」と、特産の焼酎(野間会長、大喜び!)、大島紬のコースターをご持参され、会場では、ステキなジャケット姿からおはなし会のTシャツと赤いエプロンの「勝治のおぼちゃん」スタイルに着替え、奄美の踊りで参加者の心をひとつにしてくださいました。

●奨励賞の明德館ボランティアの会(秋田県)の青木美貴子さん、最上誠子さん、谷藤由紀美さんは、控室での記念撮影の様子を、会のLINEグループへさっそく送り、会場の雰囲気共有されていました。なお、祝賀会では野間会長と「秋田と言えばクマ」と盛りあげたそうです。

●団体の部受賞のデイジー岩手(岩手県)の会長、成田優子さんは「自身が見聞がいをお持ちというところで、高校生の甥御さん、小池陽仁さんがご同行。成田さんをスマートフォンで撮影する小池さんの所作がとても美しく、思わず見入ってしまいました。私と同じ感想を持った参加者も多かったと思います。

●来月号で受賞者のことばや、贈呈式の写真などを紹介します。(伸)